

平成27年度 徳島県立徳島視覚支援学校「学力向上実行プラン」

1 学力・学習状況における現状分析, 目標等

【3つの視点】

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

幼稚園・幼児の状況			
よさ	○少人数のため、一人ひとりの実態や興味関心に応じた保育ができる。教員との愛着関係ができ、友だちや興味があることへの関心ができ始めている。	課題	○教員と1対1での活動が多く、過支援となったり、受動的になりやすい。各幼児の障がいの特性や実態に応じた適切な支援や指導の手立てにより、自分なりの方法で意思を伝えようとし、友だちを意識したり、先生や様々な物に主体的に関わることができるようにすることが課題である。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
○友だちを意識したり、先生や様々な物に主体的に関わることができ、自分なりの方法で意思を伝えようとする。		○「個別の指導計画」の表現や主体的に関わることに 関する目標が80%達成(○または◎)できる。	評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
○視覚障害や保育、盲ろう児の指導について等テーマをしぼった話し合いや研修を実施し、それぞれの幼児の支援の方法を検討する。		○年間10回以上、部内研修や部会等でテーマをしぼった研修や保育の振り返り、ケース会議を行い、支援方法の検討を行う。	
* 中間期の見直し			
達成状況を踏まえた改善事項			
小学部・児童の状況			
よさ	○少人数や個別の学習時間が多く、それぞれの課題やペースに合わせた学習ができている。	課題	○少人数での学習や活動が多いため、集団活動の楽しさを十分に味わう機会や集団の中での自己表現の経験が少ない。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
○他学部との合同学習、八万小学校や聴覚支援学校との交流及び共同学習に、落ち着いて参加することができる。集団活動では発語や発声など、各児童にふさわしい方法で、自己表現ができている。		○「個別の指導計画」の表現に関する目標や「交流及び共同学習」に関する目標がほぼ達成できる。(全て○か◎になる)	評価

具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
<p>○合同学習や交流及び共同学習の前には、児童に合う支援や、各児童の自己表現の方法について、全教員が共通理解を持った状態で交流及び共同学習が実施できるようにする。交流実施後は、活動中の児童の様子について、参加した教員同士で必ず振り返りを行い、教職員で情報を共有する。</p>		<p>○年間10回以上、小学部研修や小学部会でケース会議、支援方法の検討を行う。</p> <p>○交流の都度、事前の打ち合わせと事後の振り返りを実施する。</p>	
* 中間期の見直し			
達成状況を踏まえた改善事項			
中 学 部 ・ 生 徒 の 状 況			
よさ	○各生徒の実態は異なるが、それぞれ新しい環境での生活や学習に、真面目に努力して取り組んでいる。	課題	○生活や学習の環境が変わり、とまどいを感じている。さらに、中学部になると学習内容が多くなるうえに教科担任制等もあいまって、学習が受け身になりがちである。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
○進んで学習に取り組み、学んだことを確実に身につけて、生活に活かしていこうとする。		○個別の指導計画の各教科等の目標について、各生徒とも◎もしくは○の評価を70%以上得る。	評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
<p>○生徒一人一人について、障がいや特性に配慮した支援・指導を検討し、共通理解にもとづく一貫性のある指導を継続して行う。</p> <p>○生徒一人一人に応じて教材教具を工夫する。</p>		<p>○高等部の教科担当者等を含めたケース会や連絡会、部内研修を年間に10回以上行い、指導の統一・改善を図る。</p> <p>○毎週、各生徒について振り返りを行い、生徒の状況について共通理解につとめる。</p> <p>○生徒に応じた教材教具を10個以上作成し、自作教材シートに登録し周知を図る。</p>	
* 中間期の見直し			
達成状況を踏まえた改善事項			

高等部 普通科・生徒の状況			
よ さ	○各生徒の実態は異なるが、自分の進路について考え、学校生活や学習、就業体験等に真面目に取り組んでいる。	課 題	○さまざまな移動手段を学び、日常生活や職業生活に必要な移動能力の向上を目指す。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
○将来を見据え、目標を持ち、根気強く自分の課題に取り組むことができる生徒。		○それぞれの段階に応じたチェックリストを作成し、8割以上の項目においてできるようになる。	評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
○生徒一人一人の課題を共通理解し連携して指導にあたる。 ○自立活動や総合的な学習の時間などに歩行訓練士による継続的な歩行指導や公共交通機関を利用した校外学習を実施する。		○月に1回以上学部会で取り組み状況を話し合う。 ○登下校を含む歩行指導、公共交通機関を使った校外学習、また、学校周辺の探索歩行を年10回以上実施する。	
* 中間期の見直し			
達成状況を踏まえた改善事項			
高等部 職業学科・生徒の状況			
よ さ	○あん摩・マッサージ・指圧師、はり師、きゆう師になるという卒後に向けての明確なビジョンを持って学習に取り組んでいる。	課 題	○一人一人異なる見えにくさからくる学習の困難をどのようにクリアしていくかが課題となっている。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
○専門的知識や技能を身につけ、施術者として自立できる生徒 ○社会人としての自覚をもち、他者と共存しながら、健康で豊かな人生を自ら切り拓くことのできる生徒		○定期考査等で6割以上の成績を取る。	評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
○生徒一人一人の見え方に配慮した支援のあり方について検討し、専門教科の教員と普通教科の教員が協力してICTなど指導方法を工夫し指導する。		○成績の伸び悩んでいる生徒については補習等を行うことで対応し、自覚に欠ける生徒に対しては、キャリアプログラムを活用して指導する。	
* 中間期の見直し			
達成状況を踏まえた改善事項			